

## 会 議 の 要 旨 ( 議 事 録 )

会議の名称	平成 28 年度第 1 回勝尾城筑紫氏遺跡保存整備委員会		
開催日時	平成 28 年 11 月 9 日(水) 13:30～16:45	開催場所	鳥栖市役所 2 階第 1 会議室
出席者数	委員 7 人(欠席 2 人) 佐賀県 2 人 事務局 5 人	傍聴人数	0 人
議 題	(1) 葛籠城跡地区の保存整備事業について (2) 葛籠城跡地区の現地視察		
配布資料	平成 28 年度第 1 回勝尾城筑紫氏遺跡保存整備委員会資料		
所 管 課	(課名) 生涯学習課 (電話番号) 85-3695		

## 1. あいさつ

生涯学習課長あいさつ  
教育長あいさつ

## 2. 議 題

## (1) 葛籠城跡地区の保存整備事業について

※事務局、資料に基づいて説明。

## 【委員】

・5 頁の整備ゾーン図の中には、公有化されていない土地も入っているのか。

## 【事務局】

・公有化されない土地も入っている。現在の公有化進捗は 80% を越えたところである。来年度が公有化の最終年度の予定となるが、それを入れても 85% である。そのため、この間、所有者との交渉を重ねて公有化が困難な土地も出てきている。譲渡に至らない所有者の方も整備事業は肯定的な考えであるので、今後は寄託のような無償で扱えるなどの対応を図って整備事業を進めていきたい。

## 【委員】

・整備のゾーンが 3 地区に分かれているが、どの地区から整備を行うのか。

## 【事務局】

・今のところ、主郭部・空堀Ⅱの中央地区(緑色)の標高が高いエリアから整備(伐採)を行い、次に南地区か北地区に行った方が技術的に良いと考えている。

## (2) 葛籠城跡地区の現地視察

### ※視察後の意見等

#### 【委員】

- ・山城が機能していた時には杉・檜や孟宗竹は無かったので、堀と土塁に生育する、杉・桧は伐採して最終的には無くす方向で進めた方が良いと思う。但し一度に伐採してしまうと、雑草が生い茂るので、後の管理が大変になる。
- ・主郭部周辺の自然林地は、来訪者に眺望ができるよう間伐したいとのことであったが、切られる場合には、堀の内側から進めていき、その後土塁に係る部分を伐採した方がよいと思う。
- ・戦国期はどのような植生であったのかは歴史分野の先生が詳しいと思うが、どのような植生に将来誘導していきたいか、例えば何十年後にこのような樹林にしたいとのことであれば、その技術的な解決方法はある。

#### 【委員】

- ・視察で最初（九電の管理階段）から入った道ですが、空堀Ⅰと空堀Ⅱ、現状ではいかにも土塁と堀を壊して、道が整備されているように見えるが、本当に後の時代のものであれば、本来の姿に戻すべきなのかどうか。今の状態であると、来訪者が城へ続く道であると誤解する可能性がある。管理等の問題で元に戻すことが難しい場合は、どこかで説明してあげないと見学者が誤解を生じると思うので、そういった意味では失われた遺構をどこまで復元するべきかについては、今後設計をたてる上で検討していかないといけない。
- ・26・27年度の発掘調査の成果で、谷部（南）から主郭部に上がっていく通路が次第に分かってきたが、最終的にどう繋がっていくかが現状で判断が難しい。少なくともあの谷のどこかに城道（動線）があることは間違いないが、どこかである程度見切りをつけないといけないと感じた。
- ・それと谷部に土塁が無くなっていくようだと説明でしたが、戦国時代の山城は尾根を切って堀をつくるのが多く、谷は何もしないのが通常（防御的に谷部は何もしなくても守り易い）である。葛籠城の場合は、これだけ堀と土塁があることが非常に珍しいので、谷の部分に土塁が無くなっていくことは、うなずけると思った。
- ・葛籠城の空堀は、現状で堀底は1.8mほど埋まっている。この堀をどう見せるのか、整備ポイントになるが、埋没された堀底を見せる場合、費用面と整備後の管理のことを十分考えておく必要がある。
- ・空堀の伐採は、堀の中に生えている木はぜひ伐採した方がよい。またそれ以外に、遺構に影響を及ぼす恐れがある樹木（例：倒木で根が遺構を壊すような場合）は伐採した方がよいと思った。後は、土塁や石垣が崩れている箇所が見受けられるので、現況を押えていくしかないのかなと思った。
- ・最後に、葛籠城には案内板が所々設置されているが、広大な範囲のため現在地が分かりにくい、例えば案内板とパンフレットに番号標記するなどの工夫が必要であると感じた。

#### 【佐賀県】

これから基本設計の段階に入っていくことになるが、これまでの調査

で分からない箇所も多いので、これについては早めに説明していけるよう調査を行い、その成果を整備に反映していくことが必要だと思う。事務局の策定スケジュールでは、28～30年度の3カ年で行う計画なので、早めに洗い出しを行って効果的に進めていただき、実施設計まで繋げられるようにしていかないといけない。

それと、葛籠城の整備コンセプトにもあるように、広大な範囲を散策しながら見学する中で、堀や土塁、石垣を見せていく中で、未確定な部分もあるので、その部分については、来訪者が想像を膨らませるようなことも1つのやり方であると感じた。

#### 【佐賀県】

- ・整備のゾーニングについては、これまでの発掘調査で検出された遺構を抽出していくと、もう少し具体的な線引きができるのではないかと。それがサインの計画にもつながっていく。
- ・葛籠城は広大なエリアのため、見せたいポイントを選定して進めていった方がよい。
- ・伐採は切りすぎると、後の維持管理（費用と人力）が大変なるので、バランスをもって慎重に行った方がよい。
- ・計画途中なので（整備はまだ先になるので）来訪者の対応として、例えば手作りの案内板を設置するなど考えておいた方がよい。

#### 【委員】

- ・資料5頁の整備ゾーン図のゾーニングの件ですが、関連する遺構である空堀Ⅰと空堀Ⅱは同じゾーンの方がよいと思うが。

【事務局】ゾーニングした理由は、整備工事を3カ年で行う計画のため、整備ゾーンを3地区に分けている。先ず1年目は葛籠城の主郭部（緑色）から整備工事を行い、2年目は、南の谷部から上る、空堀Ⅰ（青色）にかけて、3年目は屋敷跡を中心としたエリア（赤色）を考えている。本来であれば、関連する遺構として考えるならば、空堀Ⅰと空堀Ⅱは同じゾーンの方がよいかもしれないが、遺構の状況（配置や広がり）と単年度ごとに工事を行うことを考えた結果、今回提示した線引きになっている。今後先生方のご意見をいただきながら、詳細にゾーンの線引きを行いたいと考えている。

#### 【委員】

- ・葛籠城の整備イメージは、今後会議を重ねるうちに見えてくるとは思うが、熊本県の山城の整備事例において、木を切って（切りすぎて）、芝を植えるという方法を取った。そのため、城郭構造はよく分かるが趣がない。そういった意味では、残す木は大事であるので慎重に行っていただきたい。
- ・葛籠城については、まだ分かっていないことが多いので、将来は発掘調査を行って説明してほしい。
- ・現在の惣構地区と葛籠城地区は長崎自動車道で分離されているが、本来は大きな舌状の山（尾根）が延びて続いていたことを考えて、大友氏や島津氏との戦いの中で、最終的に残った姿を頭に入れて整備を行っていただきたい。

**【委員】**

・動線は来訪者の流れを想定して計画してほしいことと、整備後の維持管理と管理体制については十分検討する必要があると感じた。

**【委員】**

・整備を行うにあたっては、時期的な変遷を念頭において事業を進めてほしい。

・主郭部は、可能な限り伐採して眺望を確保した方がよいと感じた。その理由は、勝尾城が立地するこの地は、戦国期も国境地帯に位置するため、主郭から南を望むと、久留米の耳納連山と対峙するため、その歴史的な価値を踏まえて来訪者が思いを感じていただけるのではないかと思う。

**【委員】**

・これから作成するのが葛籠城の整備のための基本設計であるが、勝尾城全体の中の支城の1つであることを意識して進めていただきたい。次の会議では、遺跡の全体図を用意していただきたい。

**【委員】**

・高尾先生に確認ですが、今回は視察をしていないが、南から入る狭長な谷部の田んぼ道は、本当に散策道として設定してよいのか。重要でないなら、しばらくは現状のままでもよいのではないか。

**【委員】**

・この谷部の西方（県道川久保線方面）には山浦城や朝日山城が所在していることから、そのルートからアクセスを考えると、散策道としては良いとは思いますが、戦国期の道としては確定できていないので躊躇している。薛先生が言われているように明確でないならば、あえて手をかけなくてもよいと思うが。

**【委員】**

・散策道については、少なくとも山浦新町から入るルートは、今後検討した方がよい。

・今回、各先生方からのご意見等を踏まえて、今後の整備事業を進めていただきたい。

**【事務局】**

・今回いただいたご意見等を整理して、基本設計に取りまとめていきたい、それと他の山城の整備事例も調査を行い、次の委員会に反映していきたいと考えている。次回は2月を予定している。

**【終了】**